

## 寺檀関係の大切さ

令和六年十月二十二日（火）  
五泉市 永谷寺 吉原東玄

先週の衝撃的な出来事

日頃の住職と檀家の結びつきを痛感

一三一九年、瑩山禪師五十六歳の年。次のようにお示しです。

「檀那（信者）を敬うこと仏の如くすべし。戒定慧解、皆檀那（信者）の力によって成就す。」  
かいじよう

出家して戒法を授かるところから、解脱（おきとり）に至るまで、全ては檀越（信者）の力によるという一文です。

更には「瑩山が今生の仏法修行、この檀越（信者）の信心によりて成就す。」とまでお示しです。

今生の仏法修行は檀越（檀家さん）の信心によりて成就す。

『洞谷記』

幼少期の友人からの何気ない一言

『お坊さんは、人が死ぬとお金がもらえるんだよな。いいよなあ』

このやりとりは実は僧侶として生きていくうえでもの凄く重要と感ずる今日この頃。

お寺は檀信徒の力で護持され、ご本尊様をまつり、布教と救済の場となり、ご先祖様や故人様をご供養する報恩感謝の場でありま  
す。それ故に、寺院は心の拠り所なのです。